

居住地域における交流及び共同学習

居住地域における交流及び共同学習とは

特別支援学校に在籍する子どもたちが、居住地域の小・中学校等において、在籍する子どもたちと一緒に活動し、ふれ合う交流及び共同学習（いわゆる居住地校交流）の形態です。

特別支援学校の子どもたちにとって、地域の小・中学校等に在籍する子どもたちと一緒に学習することは、地域の同年代の子どもたちとのむすびつきを深め、将来に向けた地域での生活基盤を整えることにつながります。



「夏の生き物を探そう」の授業で一緒に学ぶ子どもたち



授業を終えた後も一緒に下校する子どもたち

小・中学校等の子どもたちにとっても、他者を理解し、共に助け合って生きることの大切さを学ぶよい機会となります。また、継続的に行うことで、より一層の効果も期待できます。

●保護者の感想

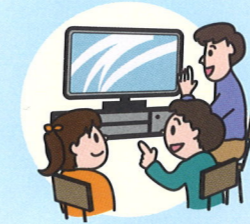
わが子は、はじめはたくさんの友達に囲まれてとまどっていましたが、あたたかく迎えてくれる友達の気持ちがわかったようで、その後は笑顔さえ見せながら最後まで授業に参加できました。親として本当に幸せな時間でした。また、普段は見られないわが子の生き生きとした意欲的な様子にもびっくりしました。

学校間における交流及び共同学習

学校間における交流及び共同学習とは

幼稚園、小学校、中学校、高等学校等と特別支援学校が、行事等を通じて相互に相手校を訪れ、学校全体、学年、学級等の単位で行う交流及び共同学習の形態です。

学校間交流には、相互訪問による直接交流のほかにも手紙やビデオ等による間接交流があります。



パン作りを一緒にする高等学校と特別支援学校の生徒たち



手話で自己紹介する子どもたち

お互いの学校の特色ある活動を生かして、共に協力し合うことでお互いのよさを知り、理解を深める貴重な機会になります。

●特別支援学校Aさんから交流先の学校への手紙

交流会では、じゅんぴからゲームの用意をいろいろ考えてくれてありがとうございました。わたしは、「おくりもの」の歌に感動しました。ソーランぶしもかっこよかったです。一番楽しかったことは、ころがしドッジボールとフルーツバスケットです。手話でのじこしょうかいありがとうございました。よくわかりました。これからもずっと友だちでいてください。また会える日を楽しみにしています。

